
血液透析患者において糖尿病は抑うつ・睡眠障害の憎悪因子である

医療法人衆和会 長崎腎病院

○山下万紀子 原野詩織 林田征俊 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【背景】

透析患者は抑うつから睡眠障害を経験しやすく、また糖尿病患者は血糖変動や神経障害などが原因で睡眠障害を発症しやすいとの報告がある。

【目的】

当院の血液透析患者における抑うつと睡眠障害の有症率を確認し、さらにDM群と非DM群で有症率やその重症度を比較した。

【方法】

外来血液透析患者のうち文書で同意を得られた145例を対象とした(DM群41名、非DM群104名)。抑うつの判定はBeck's Depression Inventoryを、睡眠障害の判定はPittsburgh Sleep Quality Indexの質問票を用い、いずれも自己申告制とした。

【結果】

全対象の有症率は、抑うつ27.5%、睡眠障害53.5%であった。DM群と非DM群の比較では、抑うつ・睡眠障害ともに有症率に有意差はないものの、各スコアはDM群が有意に高値、つまりDM群の重症度が高かった。

【考察】

血液透析患者において抑うつ・睡眠障害は発症しやすく、特に糖尿病患者への精神的サポートは必須であると思われた。